

[007]附属図書館研究開発室の概要 : 2002~2003(第7年次)

<https://doi.org/10.15017/16789>

出版情報 : 九州大学附属図書館研究開発室年報. 2002-2003, pp. 1-32, 2003-04-01. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :

附属図書館研究開発室の概要

2002 ～ 2003
(第7年次)

九州大学附属図書館

はじめに

附属図書館は、近年の大学院重点化等に伴って、教育研究活動の高度化、多様化、学際化等の進展に対応した学術情報を利用者に提供するという教育支援活動としての責務がありますが、これを推進するには高度な情報処理に関する専門的知識を必要とする事項が多々あり、図書館職員だけでは対処できない状況となっています。

特に「大学図書館基準」の「二 図書館の機能と業務」において、「大学図書館は、大学の研究・教育に不可欠な図書館資料を効率的に収集・組織・保管し、利用者の研究・教育・学習等のための利用要求に対し、これを効果的に提供することを主要な機能とする。この機能を発揮するためには、(2)～(6)の諸点について格段の配慮をするとともに、その業務の改善を図るための研究・開発機能を併せもたねばならない。」とあり、研究・開発機能をもつことが強く求められています。

このことにより、本学では評議会の決定により平成8年4月に附属図書館に「研究開発室」を設置し、教育・研究支援活動の改善、強化に関する事項について研究開発を行い、高度な図書館サービスの実現に向け推進しています。

研究成果は、年度ごとに『附属図書館研究開発室の概要』としてまとめ、刊行・公開してきましたが、平成13年度は、発足以来6年目という節目に当り、今後の研究開発室の継続を検討してもらうために、研究開発室の活動と得られた成果、今後の大学図書館における重要な研究開発課題等についての報告を評議員を対象にして実施しました。その結果、多くの評議員から積極的な高い評価を頂き、3月開催の評議会において、さらに5年間の延長を決定して頂きました。

研究開発室の活動に対してこれまでに頂きました総長・評議員はじめ関係者の皆様のご理解とご支援に対しまして、また、研究開発室室員及び附属図書館の関係者のご努力に対しまして深く感謝いたします。

平成14年度は、研究開発室にとりまして第2期の2年目の年になりました。平成11年度から学内的に措置されている研究開発室専任の助教授のポストについても、平成13年度からさらに3年間の運用を認めて頂いています。引き続き、研究開発室の事業に対して、ご理解・ご支援くださいますようお願い申し上げます。

平成15年4月
九州大学附属図書館長
有川 節 夫

目 次

はじめに	
I 設置の目的	1
II 組 織	1
III 平成14年度における研究開発	
1 図書館の将来計画に関する調査研究	2
2 電子図書館システムの研究開発	3
3 貴重資料の画像及び書誌データベース作成に関する研究開発	7
4 古書・文書データベース構築に関する調査研究	8
5 統合移転後の新図書館建設に関する調査研究	9
6 韓国との間における図書館間交流の推進における調査研究	10
7 貴重古医書のデータベース化及び医史的、書誌学的な調査研究	11
8 ICタグによる図書館運用に関する調査研究	13
9 レファレンス事例検索システムに関する調査研究	14
10 ホームページ等、附属図書館広報活動における英文化に関する調査研究	15
IV 研究開発室懇談会	16
V 研究開発室会議	18
VI 平成15年度における研究開発事項	20
VII 関連規則等	23
VIII 沿革・日誌1996～2003	25

I

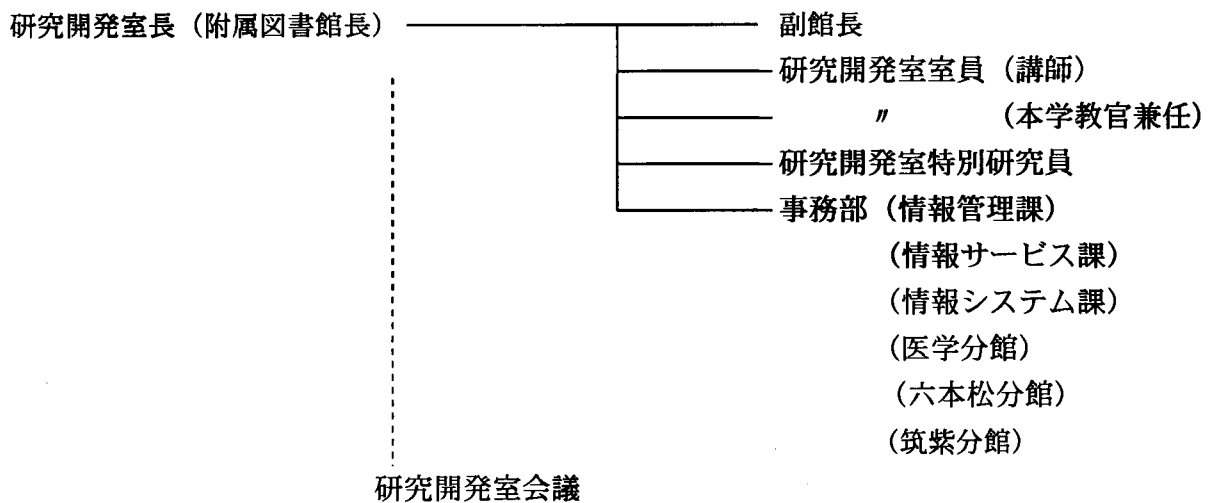
設置の目的

九州大学附属図書館研究開発室は、大学における学術情報の収集、加工、蓄積、提供及びその他図書館が行う教育研究支援活動の改善に関する事項のうち、附属図書館長が指定する事項について研究開発を行い、もって高度な図書館サービス実現に寄与することを目的とする。

II

組

織



名簿 (平成14年度)

室長	有川 節夫	(附属図書館長、システム情報科学研究院教授)
室員	藤田 昌也	(附属図書館副館長、経済学研究院教授)
	松尾 文碩	(情報基盤センター長、システム情報科学研究院教授)
	喜田 拓也	(附属図書館研究開発室講師)
	南 俊朗	(九州情報大学教授、特別研究員)
	今西 裕一郎	(人文科学研究院教授)
	吉田 昌彦	(比較社会文化研究院教授)
	宮崎 克則	(総合研究博物館助教授)
	山野 善郎	(人間環境学研究院助教授)
	松原 孝俊	(言語文化研究院教授)
	Wolfgang Michel	(言語文化研究院教授)
	藤崎 清孝	(システム情報科学研究院助教授)
	竹田 正幸	(システム情報科学研究院助教授)
	Cobbing Andrew	(留学生センター教授)

Ⅲ

平成14年度における研究開発

1 図書館の将来計画に関する調査研究

室 員 藤田 昌也（附属図書館副館長・経済学研究院 教授）
担当部署 情報管理課長

〈研究開発概要〉

九州大学附属図書館としての将来計画、特に元岡地区への移転統合、国立大学の独立行政法人化における図書館のあり方等、図書館の将来計画について調査研究することを目標として活動している。

14年度は、附属図書館としての将来計画に関わる状況に大きな変化があった。新キャンパス（元岡地区）における第一期移転部局（工学部）が17年度後期に開講することになり、それに伴い「理系図書館」の開館時期が17年10月と設定された。さらに、平成14年度補正予算で「理系図書館」建築の一部が認められ、15年度着工に向けた諸準備が開始された。一方、独立行政法人化については国立大学法人化法の概要が明らかにされ、16年4月の新法人への移行に向けた制度設計と中期目標・中期計画の確定が急務となっている。また、九州大学と九州芸術工科大学との統合についても15年度予算で確定した。これらの動きと併行して、ワーキンググループによる九州大学附属図書館将来構想（第2次案）の検討が進められ、附属図書館商議委員会です承された。

以上のような状況を踏まえ、今年度の調査研究活動は他の大学図書館等（海外を含む）の状況調査、独立行政法人化に向けた課題抽出を中心に行った。

〈研究開発の内容〉

1. 大学図書館等の施設調査
 - ・スウェーデン、フィンランドの図書館
 - ・英国、ドイツの図書館
 - ・国内の大学図書館（新築）
立命館アジア太平洋大学ほか
2. 図書館における独立行政法人化の課題
 - ・資産（図書館資料）の継承
 - ・図書館の法的位置づけ
 - ・財政基盤
 - ・図書館の専門職員制度
 - ・図書館協議会等の在り方

2 電子図書館システムの研究開発

室 員 松尾 文碩（システム情報科学研究院 教授）
室 員 喜田 拓也（研究開発室 講師）
室 員 南 俊朗（研究開発室 特別研究員）
担当部署 情報システム課電子情報掛長
担当部署 情報基盤センター電子図書館掛長

〈研究開発概要〉

本年度は、RFID システムに関する研究と e-Learning 環境整備について研究費が得られたため、これら二つの課題について主に取り組んだ。特に、筑紫分館において RFID システムを導入し実稼動を開始できたことは、我々の目的である図書館の電子化・自動化における大きな成果であった。e-Learning 環境整備については、情報基盤センター・医学部保健学科等との共同研究という形で、モデル講義のための授業コースコンテンツ作成に取り組んだ。附属図書館としては、情報リテラシー教育活動で行っていた情報検索講習会のいくつかのテーマを取り上げ、e-Learning コースウェアである WebCT 上に新たな自習用教材を作成した。

その他、医学分館所蔵貴重古医書画像データベースのための検索システムや、教官宛てメール配信システム等の各種システム開発を行った。これらのシステムは平成15年度に公開を予定している。

〈研究開発の内容〉

【RFIDタグを利用した図書館の自動化・省力化に関する研究】

本研究に関して、今年度より2年間、日本学術振興会科学研究費補助金を受けられることになった（基盤研究 B2：課題番号14380181：研究課題名「RFID タグによる図書館業務の自動化・省力化に関する実証的研究」）。

RFID タグ（RF タグ）は、IC チップにアンテナを取り付けたものであり、電磁誘導によって外部から供給されるエネルギーを用いて外部と電波による通信を行う。この RF タグを図書に貼付することで、バーコードによる図書貸出・返却機能とタトルテープによる盗難防止機能の双方を RF タグ一枚に集約することができる。さらに非接触によるデータ通信・メモリ機能の装備という特徴を生かすことで、多くの付加的サービスを提供することができる。

昨年度までの調査を踏まえ、今年度も RF タグの導入のための調査・検討を引き続き行った。さらに実際に筑紫分館へのシステム導入を行い、導入時・稼動時における種々の問題点を明らかにし、それらの報告と解決策の提案を行った[5]。

RFID システムの図書館への応用はいくつかの企業によって提案され、実際にもサービスが提供されているが、種々の問題点を克服した十分に満足のいくシステムはまだ存在しない。

現在、ISO 規格準拠の I-CODE2を利用した製作キットを用いてタグを試作し、図書館向けタグ仕様の検討を行っているが、メモリに載せる情報の検討など残された課題も多い。これまでの成果をもとに今後も企業との共同研究を進めていきたい。

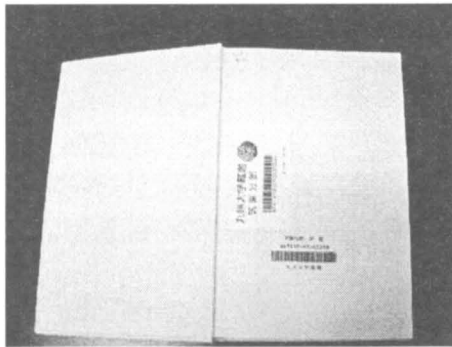


図 1 RFタグ貼付例

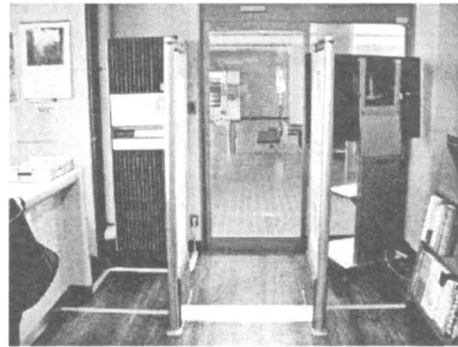


図 2 入退館ゲート

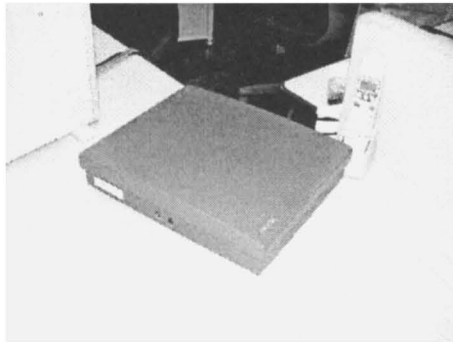


図 3 貸出用リーダ・ライタ装置

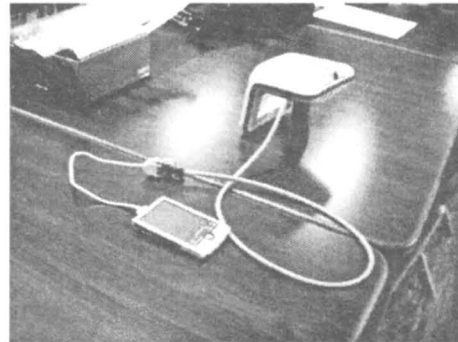


図 4 蔵書点検用ハンディスキャナ

【e-Learningに関する研究と情報リテラシー教育活動】

教育機関である大学の一員として図書館も学生の教育を担うという認識から、情報リテラシー教育の拠点となりうる図書館の在り方をこれまで模索し続けてきた。その一つの結果として平成13年から情報検索講習会と称した一連の講習会を開催してきた。講習会にはこれまで延べ980人以上が参加し、ひとつの成功を収めたといえる。

しかしながら、時間がとれず目的の講習会に参加できなかったという受講者の声も少なくなかった。また一方では、講習会を担当する職員各人の負担が甚大であり通常の業務への影響が問題となってきた。

こうした背景をうけ、情報リテラシー教育を効率よく行うためにネットワークを利用した遠隔教育（e-Learning）に着目し、そのための技術動向の調査・研究を開始した。時期を同じくして本学情報基盤センターの井上 仁 講師らも e-Learning に注目しており、結果、Web ブラウザを利用した WBT（Web Based Training）のためのコースウェアシステムとして WebCT が本学の情報基盤センターに導入された。WebCT はカナダのプリティッシュコロンビア大学で開発され名古屋大学の情報メディア教育センターを中心に日本語化されたシステムである。これにより、学習者は距離や時間の制限を受けることなく学習することが可能になる。

本研究・教育活動は、平成14年度および平成15年度の九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクトとして採択され、附属図書館・情報基盤センター・医学部保健学科等を中心に WebCT コースコンテンツを作成することになった（P&P 種別 C：研究課題名「e ラーニングシステムを利用した学内教育基盤整備のためのモデル講義の構築」）。本年度、研究開発室では、Web 検索・OPAC・Webcat の三つの自習用コースコンテンツを作成した。



図 5 WebCTコンテンツ(Web検索)

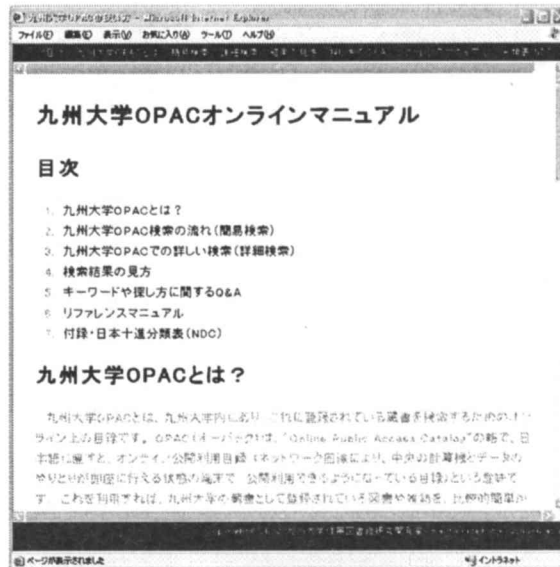


図 6 WebCTコンテンツ(OPAC)

【教官宛てメール配信システム】

梶山総長の要望を受け、研究開発室にて平成14年11月に開発着手したシステムで、平成15年度に運用開始を予定している。

本システムの目的は、九州大学内の教官宛てに全学的かつ柔軟に広報メールを配信する仕組みを提供することである。各教官が登録した研究キーワード等を対象にキーワード検索を行い、キーワードに適合する教官に対してのみメールの配信を行うことができる。これにより、部局の枠組みにとらわれずに広報メールを配信することができる。

Google と同様に AND 検索・OR 検索・NOT 検索を行うことが可能であり、また、例えば「助教授のみ」や「講師以上の教官」というような職名を指定した検索も可能である。

今後の課題は、より柔軟な検索の絞りこみ機能や受信拒否機能の実装が挙げられる。



図 7 メールアドレス検索画面

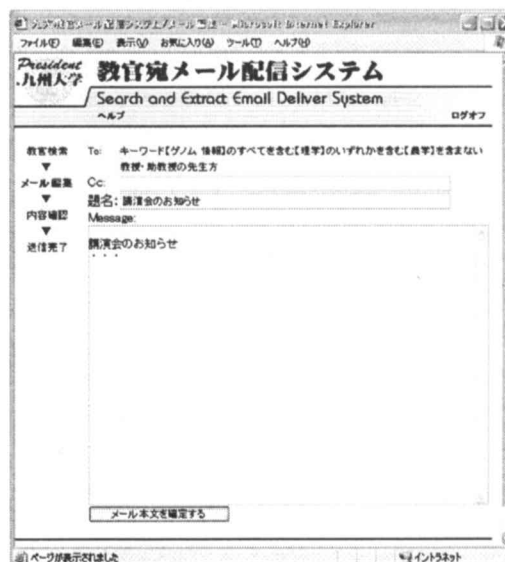


図 8 送信メール編集画面

【その他の調査・研究・活動】

・RFタグに関する調査:

第4回自動認識総合展・第4回図書館総合展・IC カードワールド2003などのイベントを通じてRFタグ技術の現状を調査し、また図書館への適用に関する検討を深めた。昨年度と比べるとRFタグに対する認知と普及が大幅に進んでいる。最近の意識調査では、来るべきユビキタス時代で最も期待されている技術としてRFタグの名前が挙がっている。普及に伴いタグの価格も大幅に低下しつつあり、図書館への導入も数年以内に本格化しそうな勢いである。

・米国出張:e-Learningの調査

米国 Columbia 大学の CVN (Columbia Video Network) および Stanford 大学の SCPD (Stanford Center for Professional Development) に関して調査訪問を行った。いずれの大学においても専用のスタジオを整備し、授業内容をビデオカメラで収録・編集を行い、学内および学外への提供を行っている。学生だけに対象を限定しておらず、生涯教育を意識した e-Learning 活動を行っている。これからは図書館の提供する情報リテラシー教育なども電子的に蓄積し、e-Learning 教材として提供すべきだと痛感した。

・医学分館所蔵古医書画像データベース検索システム(ICOMB)

医学分館で構築が進められている古医書画像データベースについて、その検索システムを開発中である。現在、室員の Wolfgang Michel 教授らと共に、画像データに付記するキーワードと検索システムの整備を進めている。

【発表・参考文献】

- [1] 南俊朗：IC タグの利用と目録カードのイメージ検索による図書館電子化の試み、第53回九州地区大学図書館協議会総会講演、2002年4月19日。
- [2] 南俊朗：新世代図書館像を探る：電子図書館への実証的アプローチ、OR学会九州支部講演会、2002年11月21日。
- [3] Yamanoue, T., Minami, T. and Ruxton, I.: Web-Based Concordancer to Learn Usage of English Expressions, First International Conference on Information Technology & Applications (ICITA 2002), November 2002.
- [4] 南俊朗：自動認識技術による図書館電子化の試み、鹿児島県大学図書館協議会研修会講演、2003年1月14日。
- [5] 喜田拓也、南俊朗、藤崎清孝：RFID による図書館運用～図書館の電子化・自動化に向けて～、九州大学附属図書館講演会、2003年1月28日。
- [6] 南俊朗、喜田拓也：RFID タグを利用した自動化図書館への課題と夢、季刊文教施設09、pp. 41-45, 2003年1月。
- [7] 喜田拓也：九大附属図書館における情報リテラシー教育活動と e-Learning への取り組み、沖縄県図書館協議会講演会、2003年2月27日。
- [8] 南俊朗：ICタグによるライブラリ・オートメーションへのアプローチ、九州情報大学紀要、2003年3月。(印刷中)

3 貴重資料の画像及び書誌データベース作成に関する研究開発

【『源氏物語』（無刊記整版本）画像データベースの作成】

室 員 今西 裕一郎（人文科学研究院 教授）
担当部署 情報サービス課図書館専門員

〈研究開発概要〉

研究開発室では、これまで、平安時代の文学作品で江戸時代初期に出版された、容易に原本に接することのできない貴重な古典籍を、今日研究に用いられている基本的な活字テキストとの頁、もしくは章段との対照検索機能を備えた画像データベースとして作成、公開してきた。すなわち『古活字版源氏物語』（平成年11年度）、『十三行古活字版および慶安版枕草子』（平成12年度）、『清少納言枕草子抄』（平成13年度）である。

本年度は近世初期版本画像データベースのより一層の充実を期して、『古活字版源氏物語』に次いで出版された『源氏物語』である、江戸初期刊無刊記整版本の画像データベースの作成に取り組んだ。

〈研究開発の内容〉

平成12年度にデータベース化した文学部蔵古活字版がほぼ寛永年間（1624～1644）の出版であるのに対して、今回の無刊記整版本は、寛永に続く正保（1644～1648）、慶安（1648～1652）年間の出版と推定されるが、この本は、その後出版され、版を重ねた『絵入り源氏』（承応3年（1654）刊）、『源氏物語湖月抄』（延宝3年（1675）刊）の盛行に圧されて今日では伝本も少なく、最近の清水婦久子氏による研究以前は研究対象として取り上げられることがなかった。

版面は、整版印刷の利点を生かして、古活字版が技術的な制約から免れなかった仮名を主とする文字連鎖の不整を解消し、仮名の流麗さを遺憾なく発揮した優品である。

本文は、中世以来の源氏学の伝統に則り、古活字版をはじめ他の版本と同様、青表紙本の本文を採用するものの、細部には微妙な相違も見られ、中世末期から近世初期にかけての『源氏物語』本文の流動性を示して興味深い。

本書の画像データベースの公開は、近世初期の古典籍出版ならびに近世初期『源氏物語』本文の研究に資するものとなろう。

なお、今回も、古活字版『源氏物語』の場合と同様、全冊の画像に『源氏物語』研究の基本文献である『源氏物語大成』校異篇の頁を付記し、本文検索の便を図った。

4 古書・文書データベース構築に関する調査研究

室 員 吉田 昌彦（六本松分館長・比較社会文化研究院 教授）
室 員 宮崎 克則（総合研究博物館 助教授）
担当部署 情報サービス課図書館専門員
担当部署 六本松分館受入掛長

〈研究開発概要〉

1. 桧垣文庫古文書目録 増補 の編纂、刊行と、そのための史料整理と目録のチェック。
2. 上広川村役場文書の整理とその基礎データの作成
3. 文学部所蔵の漢籍の整理とその基礎データの作成
4. 古書・文書整理検討委員会から出された報告書（平成9年2月）に盛り込まれた検討の後を受け、九州大学附属図書館及び各部署ごとに分散所蔵している古文書類の一元化された目録データベースを作成、電子化するための方策等について具体化するための調査研究。

〈研究開発の内容〉

「4.」については、本年度は以下の2点について調査研究および作業を実施した。

I. データベース化作業

本学内には、カードが作成されていない未整理の文書も少なくない。今年度はそうした未整理史料のうち、附属図書館所蔵の「竹田文庫」（1460点）・「桑木文庫」（500点まで、途中）、工学部図書室の「鉾山関係史料」（250点）について作業を実施、あるいは作業中である。文書の一点ごとに中性紙の封筒に入れ、表題・年代・作成者や内容などを抽出して表記し、「竹田文庫」はマイクロ・フィルムによる撮影を完了した。フィルムは附属図書館で保管している。また、医学分館所蔵のシーボルト『日本』について、基礎的な保存措置を講じた。詳細については「図書館情報」38.39号に記している。

II. デジタル公開のための研究

デジタル化した絵図や写真、または史料目録データベースをWeb上で公開するためのシステム開発を行い、試作的ではあるが、史料目録検索システムをホームページ上に公開している。詳細はHPをご覧ください（本学トップの「デジタル・アーカイブス」から入室できる）。概要は、本学が所蔵する記録史料（地域史料・石炭史料・貿易史料・技術史料・古地図など）を網羅的に掲載している。

5 統合移転後の新図書館建設に関する調査研究

室 員 山野 善郎（人間環境学研究院 助教授）
担当部署 情報管理課課長補佐
担当部署 情報管理課企画掛長

〈研究開発概要〉

元岡地区新キャンパス理系図書館および中央図書館の計画案の検討にあたり、各専門部会において建築学的立場から助言を行った。また、理系図書館に対し、平成14年度補正予算がついたため、フロア・プランの作成に参加した。

これとは別に、継続研究として、九州大学施設部に保管されている明治37年以来の建築・設備関連の契約書類と図面の整理を行い、本年度は、各教室の書棚から始まった九州大学の図書管理施設の変遷を明らかにした。

6 韓国との間における図書館間交流の推進における調査研究

室 員 松原 孝俊（言語文化研究院 教授）
担当部署 情報管理課課長補佐

〈研究開発概要〉

九州大学は、地理的にも歴史的にもアジアとの関わりが深く、これまで、アジアの人々や研究者と様々なレベルでの連携が行われてきた。また、「アジア総合研究」を国際化の柱と位置付け、全学術分野でのアジア研究の活性化を目指している。そして二度にわたり「アジア学長会議」を開催し、アジアを代表する大学とあらゆる連携を深め、共同研究を推進し、「ネットワーク・ポイント構想」を提案し、すでに多くの大学から賛同が得られ、研究データベースの共有や相互の活動拠点となるオフィス開設に向けた動きが始まっている。附属図書館としてもこの事業の一端を担うべく、研究開発室として、大韓民国の大学図書館との交流事業を研究開発することを事項として取り上げ、大韓民国ソウル大学中央図書館長の来館を機に、平成11年3月26日にソウル大学中央図書館との間で図書館間交流協定を締結し、国際交流事業を推進している。

今年度は、ソウル大学校以外の、他の大学校図書館との間で、この事業を展開することを目指し調査研究を行った。

〈研究開発の内容〉

平成14年7月10日に大韓民国大邱市（テグ）にある慶北大学校中央図書館を訪問し、図書館間交流協定を締結した。

当館にとっては、ソウル大学校中央図書館と交流協定を締結しており、大韓民国では2館目となる図書館間交流協定の締結である。

交流・協力計画の具体的内容は、①図書館刊書、②刊行物の交換、③共同開発計画、④図書館職員の交流、⑤両者が合意したその他の交流計画である。

この計画に基づき、刊行物の交換事業として、平成14年12月に慶北大学校から約70点の刊行物が寄贈され、当館からも学内発行刊行物である各部局の紀要類約40点を寄贈した。今後この刊行物の交換事業を継続して行うこととしている。

また、まだまだ1件の例であるが、慶北大学校中央図書館からの ILL 申し込みも行われ、当館所蔵資料の文献複写サービスを実施している。さらに発展した相互協力事業を推進することが両図書館共に望まれる。

大韓民国ではないが、平成15年2月10日には有川研究開発室長、松原室員、岩佐昌暲言語文化研究院教授、園田附属図書館専門員が、中華民国の台湾大学図書館を訪問し、図書館間交流協定を締結することを項潔図書館長との間で合意したため、現在、両大学において準備中である。このため、平成15年度のこの研究開発事項は、韓国ということに限定せず、アジアとの図書館間交流を推進することを調査研究したい。

7 貴重古医書のデータベース化及び医史学的、書誌学的な調査研究

室 員 Wolfgang Michel (言語文化研究院 教授)
担当部署 附属図書館医学分館図書館専門員

〈研究開発概要〉

1999年に附属図書館医学分館の保存図書館で発見された古書について、総長裁量経費により2000年春に体系的な再調査が行われ、和洋書の医学・博物学関係の書物、事典など1870年代までの書籍約2,000冊の存在が明らかになった。この中にはヨーロッパでも貴重書となっているものも少なくない上、手稿や写本も数編含まれている。これらの古書の遡及目録を作成し、データベース化による公開を進め、併せてコレクションとしての医史学的及び書誌学的な資料価値等についても調査研究を行う。

〈研究開発の内容〉

九州大学医学分館所蔵古医書の画像資料データベース公開

メーリングリストを見ていると世界中の医史学者、医学者、歴史学者、医師、美術史家などが、古医書を良質の図版で入手したいと願っている。ヨーロッパでもアメリカでもこのような書物は少なく、ほとんどが各地の図書館に分散しており、その複写もたいていは煩雑な手続きが必要となる。米国国立医学図書館(NLM)は各種イラスト、写真、風刺画など医学関係の画像資料をデータベース化し、インターネットで公開しているが、ここに九州大学医学分館が所蔵している西洋の古医書はあまり見当たらないし、日本と中国の書籍からの図版データもほとんど含まれていない。この10年間、日本の医学史に対する関心は海外でも高まっているにも関わらず、上記の米国国立医学図書館データベースにおける日本関係の図版は合計100点弱に過ぎない。九州大学医学分館は幸いにも和漢・洋の貴重書を広範囲にわたって所蔵している。これらのコレクションは近年、新たな発見もあり、形態解析学講座の古書を管理換えしたことで、更に充実した。

平成14年度には日本学術振興会から科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の交付を受けて「九州大学医学分館所蔵貴重古医書・画像データベース」を作成し、インターネットで公開している(図1)。ソフトウェアの開発は附属図書館研究開発室の喜田拓也講師による。このデータベースは現在(2003年4月)、専門の業者によりカラー撮影(標題紙、目次、挿し絵)をした約9500点の和漢・洋書の画像を網羅している。特に重要と思われる書籍は全文を収録している。画像の検索には総目録と人名、標題からのキーワード、また、「心臓」、「Herz」、「Heart」、「coeur」のような一般語も用い、当該の画像資料も見出せる。著者像、扉絵、扉題、目次などのみの抽出も可能であり、個々の画像はモニター上で拡大できる。質的には表示用の画像と、印刷可能な画像(300dpi以上)をそれぞれ用意している(図2)。上記の画像資料データベースにより国内外の関心が高まり、日本医学とその歴史に関する研究がいつそう進むであろうと期待される。

和漢書の総目録の作成

洋書の総目録は一昨年に完成しており、上記の画像資料データベース作成に伴い、今年度は和漢書の約80%を目録データベースに登録した。個々の書誌データは九州大学附属図書館のオンライン目録(<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/opac/index-1.html>)と国立情報学研究所の総合目録データベースWWW検索サービス(<http://webcat.nii.ac.jp/>)で確認できる。さらに貴重古医書コレクションのウェブサイト(<http://herakles.lib.kyushu-u.ac.jp/igaku/index>)には和漢・洋書(書籍、手稿、写本)の総目録(図3)もある。これらはpdfファイルとしてダウンロードし、印

刷もできる。2003年3月末現在、洋書目録は約1400点、和漢書目録は約2500点を網羅している。以下の例で示すように、これらの総目録には通常の書誌学的な基礎データの他に、比較社会文化学府博士課程の大島明秀、日比佳代子、内山一幸、藤田理子各氏の尽力を得て、付随の情報も豊富に取り入れることができた(図4)。

上記の貴重古医書コレクション用ウェブサイトからは、貴重図書等閲覧許可願書および複写許可願書もダウンロードできる。



図1. 貴重古医書・画像資料データベースのホームページ
(<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/d-lib/icomb/>)



図2. 画像資料データベースの例



図3. 九州大学附属図書館医学分館貴重古医書コレクションのホームページ

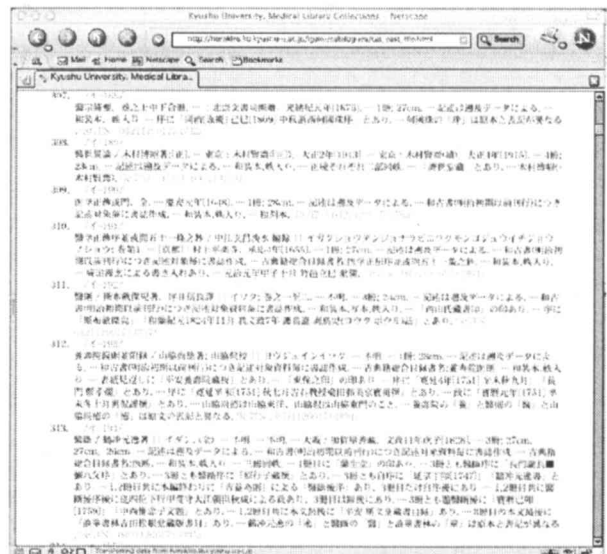


図4. 和漢書籍目録の例

8 ICタグによる図書館運用に関する調査研究

室 員 藤崎 清孝（システム情報科学研究院 助教授）
担当部署 情報サービス課情報サービス第一掛長

〈研究開発概要〉

九州大学附属図書館における図書貸出／返却窓口の作業の効率化、図書検索時間の短縮、無人ゲートによる入出者管理など、図書館サービスの拡大を目指し、IC タグを用いた図書館運用に関する研究・調査を行う。

〈研究開発の内容〉

図書館業務の電子化、自動化を進めていく上で、蔵書管理の電子化は非常に重要となる。最近様々な分野で注目を受けている非接触型の IC タグ（以降 RFID タグ）は、そのキーとなる技術の一つであり、この RFID タグを蔵書に貼り付けることにより、非接触で蔵書から情報を読み出したり、書き込んだりできるようになる。すなわち、この機能を利用することで、タクトレーブを用いて実現されている盗難防止機能とバーコードによる蔵書情報の読み出し作業を RFID システム 1 つで実現可能となる。この結果、(1) 図書貸出／返却窓口の作業の効率化、(2) 図書検索時間の短縮、(3) 無人ゲートによる入退館管理、(4) 蔵書管理の効率化を期待できる。

今年度も昨年度に引き続き、RFID システムを扱っている業者から標準化の動向、取り組みの状況など情報収集を行った。また、市販されているシステムを実際の運用の中で評価すべく、チェックポイント社との共同研究として、筑紫分館に RFID システムを用いた図書管理システムの導入を行った。導入当初は、ゲートの読み取りの性能が出ない、機器の不具合の発生、上位のシステムとの接続の問題など、幾つかのトラブルが発生したが、定期的に意見交換会を設置し、システムに対する最適化を施してきた。また、年度途中で電波法が改正され、これによって国内で運用できる RFID システムの最大出力がヨーロッパ並みに拡大された。このため、筑紫分館に導入されたシステムに対しても新電波法へ対応するためのシステムの改良が行われている。

現在、実際の運用の中で、システムの問題点を洗い出し、システムの改良を図っていく段階に移行している。具体的には、平成15年2月より実際にユーザを対象として運用を行っている。今後、この運用結果を基に、図書館用の RFID システムとしてより最適なシステムへと改良を図っていく。更に、この課題に対して、平成14年度より2年間のプロジェクトとして、有川附属図書館長を研究代表者とする科研費（基盤研究 B2：課題番号14380181）を取得しており、今後も図書の管理運用を行う上で最適な RFID タグの開発、提案なども積極的に行っていく予定である。

9 レファレンス事例検索システムに関する調査研究

室 員 竹田 正幸（システム情報科学研究院 助教授）
担当部署 情報サービス課参考調査掛長

〈研究開発概要〉

「レファレンス事例検索システム」は、九州大学附属図書館におけるレファレンス業務支援のために、過去の事例を蓄積し、今後のサービス提供に役立てるためのレファレンス事例検索システムの構築に関する情報収集と調査研究を行うことを目的としている。電子図書館におけるレファレンス業務支援の基本は、日常的なレファレンス業務を通じて業務情報を再利用可能な形で収集・蓄積・再構成し、それを日常業務における利用者支援のために活用することである。業務情報の蓄積・再利用によって、利用者支援、新人教育、利用者の潜在的な要求の発見などを効率よく行える。そこで、本学においては、九州地区大学図書館協議会の各図書館とも連携し、今後の図書館の電子化に対応したシステムの実現を目指してきた。蓄積されたレファレンス業務支援のための業務情報は、(1) 多様で (2) 非定型な (3) 大量のテキスト情報である、という特徴を持っている。一方、現在の情報検索／採掘技術は、表形式の関係データを対象としたものが主流であって、上述の業務情報にそのまま適用することはできない。今後、業務情報の蓄積が進めば、この問題は一層顕在化するであろう。そこで、本年度は、このような多様・非定型・大量のテキスト情報から効率よく情報を抽出するための基礎研究およびソフトウェア開発を行った。

〈研究開発の内容〉

1. Web 上の書誌情報獲得手法の実用化のための研究

Web 上で公開されている各種の情報から、必要な情報を大量に収集するための手法として、システム情報科学研究院有村助教授らの開発したテキストマイニング技術に着目し、これを核とした情報獲得ツールの作成を目指し、実環境下での有効性を検証し、問題点を洗い出した。

2. テキストデータ解析ツールの開発

大量のテキストデータから、その部分文字列の生起頻度等の統計情報を効率的に得るためのツールを開発した。このツールは、上述の技術で Web 上から得たテキストデータ群から、さらに必要なものだけに絞り込んで行く作業を著しく効率化することが期待できる。また、このツールは文科系の原典研究等にも有用と考えられ、国語学会2002年秋季大会においてデモを行ったところ、高い評価を得た。将来書籍の本文の電子化が進めば、書籍の内容を一望する有効なアクセスツールとなりうる。

3. 半構造データ検索エンジンの開発

図書館の電子化と情報共有の標準化に伴い、XML や RDF など半構造データとしての情報の蓄積が盛んになると予測される。これらのデータに対する既存の情報検索技術は、処理が重たく、データが大量になると必要な記憶領域量が膨大になり、事実上使用できない。そこで、大量の記憶領域を必要とせず、かつ、柔軟な処理を高速に行うことのできる検索エンジンを開発した。

10 ホームページ等、附属図書館広報活動における英文化に関する調査研究

室 員 Cobbing Andrew (留学生センター 教授)
担当部署 情報管理課企画掛長

〈研究開発概要〉

本研究はウェブサイトの英語化をはじめ、海外の研究者及び留学生が本学に来やすくなる様に、九州大学所蔵洋書を海外の利用者に対してより明白にアピールすることを目的とする。特に中央図書館三階にある「国際交流コーナー」の存在を生かし、現在学問上の目的がはっきりしていない休憩場所としての利用から、本格的「アジア・日本研究拠点」として開発する企画である。「アジア研究」及び「日本研究」とは海外の大学では「地域研究」という学問分野のカテゴリとして定着しているが、日本国内では意識はまだ低いようである。海外では人文科学系の研究者及び留学希望者のほとんど、そして理工学系の研究者の多くは「日本」そのものを意識する場合、「日本研究」といったレンズを通して考えることが現状である。そんな中で「アジアに開かれた大学」として発展している九州大学では、「アジア・日本研究」を対象とした研究図書施設を開発することは意義あることと思われる。

国際交流コーナーでは、留学生用の日本語テキストをはじめ、JTW 短期留学プログラムで開講される英語コースのために、9年前からアジア・日本関連の歴史、文学、社会、法律、文学、経済、宗教、言語学などの人文科学系のテキストやリポート用の参考洋書を組織的に購入してきた。さらにソウル大学および慶北大学からの寄贈により、まさにアジア研究施設の母体が現在できつつある状態である。国際交流コーナーの洋書はまだ2,800冊程度に過ぎないが、九州大学図書館全体では洋書は1,589,074冊もあり(2002年3月31日現在)、各部局の図書室所蔵の「アジア研究・日本研究」関連洋書はかなりの数にのぼるものと思われる。国際交流コーナーを拠点として、学内の部局図書室等に所蔵される関連図書を調査した上で、今後九州大学における「アジア学・日本学コレクション」の存在を海外に発信することが期待される。

〈研究開発の内容〉

本研究はまだ準備段階にあるが、より具体的に実施できるように現在以下の作業に取り掛かっている。

1. 数ヶ国語の図書館ウェブサイト案内が企画される過程の一部として英文の校正を行った。
2. 国際交流コーナーにおける過去五年間の洋書購入予算を確認したうえで、来年度の予算を確保できるように準備を行った。
3. 「アジア研究・日本研究」の代表的な紀要を調査した結果、'Journal of Asian Studies Bulletin', 'Monumenta Nipponica', 'Journal of Japanese Studies'各誌を過去のバックナンバー分を含めて国際交流コーナーに置けるように検討中。
4. 本学所蔵の「アジア研究・日本研究」関連洋書を対象とする調査を検討している。
5. 上記の調査結果によるが、「アジア研究・日本研究コレクション」に関する目録を附属図書館ウェブサイト上に公開するとともに、目録を国際交流コーナーに設置することを検討している。

IV

研究開発室懇談会

平成8年度第1回

- 日 時 平成9年1月9日(木) 11:00~13:00 館長室
出席者 小山(研究開発室長)、竹田、柳原、中野(室員)
議 事 1 予算について
2 研究開発状況について
3 平成9年度の研究開発事項について
4 その他

平成9年度第1回

- 日 時 平成9年9月4日(月) 10:30~12:00 館長室
出席者 小山(研究開発室長)、竹田、柳原、中野(室員)
議 事 1 予算について
2 海外大学図書館の視察計画について
3 研究開発状況について
4 その他

平成9年度第2回

- 日 時 平成9年12月22日(月) 11:00~13:00 館長室
出席者 小山(研究開発室長)、竹田、柳原、中野(室員)
議 事 1 国文学関係資料画像データベースの公開について
「大和物語」、「伊勢物語」、「建礼門院右京大夫集」
2 海外大学図書館の視察について(報告)
3 その他

平成9年度第3回

- 日 時 平成10年3月24日(火) 11:00~13:00 館長室
出席者 小山(研究開発室長)、竹田、柳原(室員)
議 事 1 17~18世紀国際法・国制史コレクションデータベースの公開について
2 国文学関係「扶桑名勝図」の画像データベースの公開について
3 平成10年度研究開発事項について
4 その他

平成10年度第1回

- 日時 平成10年7月6日(月) 13:30~15:30 館長室
出席者 有川(研究開発室長)、竹田、中野、今西、柳原(室員)
議事 1 平成10年度研究開発計画について
2 奨学寄付金の受入について
3 その他

平成10年度第2回

- 日時 平成10年10月28日(水) 10:00~11:30 館長室
出席者 有川(研究開発室長)、竹田、中野(室員)
議事 1 予算について
2 研究開発及び調査研究の動向について
3 研究開発室研究会の開催について
4 その他

平成10年度第3回

- 日時 平成11年2月22日(月) 15:30~17:00 会議室(新館4階)
出席者 有川(研究開発室長)、竹田、中野、今西、柳原(室員)
議事 1 ソウル大学校中央図書館との交流協定について
2 平成10年度研究開発の進捗状況について
3 その他

※平成11年度より「研究開発室懇談会」を「研究開発室会議」と名称変更

平成11年度第1回

- 日時 平成11年4月12日(月) 13:30～ 館長室
出席者 有川(研究開発室長)、竹田、今西、柳原、松原、吉田(室員)
議事 1 会議名称の変更について
2 平成11年度研究開発事項について
3 選考委員会について
4 その他

平成11年度第2回

- 日時 平成11年5月17日(月) 10:00～ 館長室
出席者 有川(研究開発室長)、竹田、今西、柳原、松原(室員)
議事 1 附属図書館研究開発室助教授候補者の選考について
2 その他

平成11年度第3回

- 日時 平成12年3月22日(水) 15:00～ 館長室
出席者 有川(研究開発室長)、南、竹田、今西、吉田(室員)
議事 1 平成11年度研究開発の進捗状況について
2 平成12年度研究開発事項(案)について
3 その他

平成12年度第1回

- 日時 平成12年4月22日(水) 15:00～ 館長室
出席者 有川(研究開発室長)、南、竹田、今西、吉田(室員)
議事 1 平成11年度研究開発の進捗状況について
2 平成12年度研究開発事項(案)について
3 その他

平成13年度第1回

- 日時 平成13年5月11日(金) 15:30～ 館長室
出席者 有川(研究開発室長)、松尾、南、今西、吉田、山野、藤崎、有村(室員)
議事 1 平成13年度研究開発事項(案)について
2 その他

平成13年度第2回

- 日 時 平成13年10月15日(月) 13:00～ 館長室
- 出席者 有川(研究開発室長)、松尾、喜田、南、山野、藤崎、有村(室員)
- 議 事 1 平成13年度研究開発事項の進捗状況について
2 その他

平成14年度第1回

- 日 時 平成14年5月9日(木) 10:00～ 附属図書館1階会議室
- 出席者 有川(研究開発室長)、藤田、喜田、今西、吉田、宮崎、山野、Michel、藤崎、竹田、Cobbing(室員)
- 議 事 1 平成14年度研究開発事項(案)について
2 その他

VI

平成15年度における研究開発事項

1/3

1	事 項	研究開発室に係る研究開発の総括
	概 要	大学における学術情報の収集、加工、蓄積、提供及びその他図書館が行う学習・教育・研究支援活動の改善に関する事項のうち、九州大学附属図書館研究開発室において行う課題を指定し総括する。
	室 長	有川節夫（附属図書館長、副学長、システム情報科学研究院教授）
	期 間	平成15年4月1日～平成16年3月31日
	担当窓口	栗山 平（情報管理課課長補佐）
2	事 項	図書館の将来計画に関する調査研究
	概 要	九州大学附属図書館としての将来計画、特に、元岡地区への移転統合、国立大学の独立行政法人化における図書館のあり方等、図書館の将来計画について調査研究する。
	室 員	藤田昌也（附属図書館副館長、経済学研究院教授）
	期 間	平成15年4月1日～平成16年3月31日
	担当窓口	濱崎修一（情報管理課長）
3	事 項	電子図書館システムの研究開発
	概 要	電子図書館化推進のための基礎及び実用化に関する研究を行う。特に、図書目録カードのイメージデータによる書誌情報検索支援システムの総合的支援システムの実用化に重点をおいた研究開発を進める。 その他、参考調査業務支援システム等の電子的情報収集・検索システム、ICタグを利用した図書館機能の電子化・自動化、図書館サービスのパーソナル化、書誌情報の遡及入力支援システムなどに関して、要素技術からその適用システムに至る研究を推進する。
	室 員	松尾文碩（情報基盤センター長、システム情報科学研究院教授） 喜田拓也（研究開発室講師） 南 俊朗（研究開発室特別研究員 九州情報大学教授）
	期 間	平成15年4月1日～平成16年3月31日
	担当窓口	今林安雄（情報システム課電子情報掛長） 小川 稔（情報基盤センター電子図書館掛長）
4	事 項	ホームページ等、附属図書館広報活動における英文化に関する調査研究
	概 要	ホームページをはじめ附属図書館が行う各種の広報活動について、国際化に対応できる英文化を図り、より国際的な視点から調査研究を行う。
	室 員	Cobbing Andrew（留学生センター教授）
	期 間	平成15年4月1日～平成16年3月31日
	担当窓口	昌子喜信（情報管理課企画掛長）

5	事 項	図書館職員の専門性に関する調査研究
	概 要	図書館職員が専門性を自ら持つために、特定専門分野教官の協力による研修等を通して培い、九州大学附属図書館においていかにそれを活かしているか等の調査研究を行う。
	室 員	西村重雄（法学研究院教授） 竹村則行（人文科学研究院教授）
	期 間	平成15年4月1日～平成16年3月31日
	担当窓口	松本孝文（情報システム課図書館専門員）、田中由紀子（情報システム課データベース掛長）
6	事 項	貴重資料の画像及び書誌データベース作成に関する研究開発
	概 要	九州大学附属図書館で所蔵する貴重資料の画像及び書誌データベース作成に当たっての対象資料の選定、入力方式、表示方式、検索法等に関する研究開発を行う。
	室 員	今西裕一郎（人文科学研究院教授）
	期 間	平成15年4月1日～平成16年3月31日
	担当窓口	深川光郎（情報サービス課図書館専門員）
7	事 項	古書・文書データベース構築に関する調査研究
	概 要	古書・文書整理検討委員会から出された報告書（平成9年2月）に盛り込まれた検討の後を受け、九州大学附属図書館及び各部局毎に分散所蔵している古文書類の一元化された目録データベースを作成、電子化するための方策等について具体化するための調査研究を行う。
	室 員	吉田昌彦（比較社会文化研究院教授） 宮崎克則（総合研究博物館助教授）
	期 間	平成15年4月1日～平成16年3月31日
	担当窓口	深川光郎（情報サービス課図書館専門員）、保田秀人（六本松分館受入掛長）
8	事 項	統合移転後の新図書館建設に関する調査研究
	概 要	九州大学のキャンパス移転後の新図書館建設計画に向けて、新図書館の設計等、理想的な大学図書館を建設するための調査研究を行う。
	室 員	山野善郎（人間環境学研究院助教授）
	期 間	平成15年4月1日～平成16年3月31日
	担当窓口	栗山 平（情報管理課課長補佐）、昌子喜信（情報管理課企画掛長）

9	事 項	貴重古医書のデータベース化及び医史学的、書誌学的な調査研究
	概 要	工学部旧保存書庫収蔵の医学部蔵書中には、先達の収集になる多数の16-19世紀の貴重書が含まれている。平成12年度から平成13年度まで具体的に調査研究を行って、平成14年度は科学研究費補助金の交付を受けデータ作成が進んでいる。引き続き、これの遡及目録、データベース化による公開を促進し、併せてコレクションとしての医史学的及び書誌学的な資料価値等に関する調査研究を行う。
	室 員	Wolfgang Michel (言語文化研究院教授)
	期 間	平成15年4月1日～平成16年3月31日
	担当窓口	井上久宏 (医学分館図書館専門員)
10	事 項	アジアとの間における図書館間交流の推進に関する調査研究
	概 要	九州大学附属図書館は、平成11年度の韓国ソウル大学校中央図書館に続き、平成14年度に慶北大学校中央図書館との間に図書館間交流協定を締結し、平成15年度は中華民国台湾大学図書館との交流協定締結を計画している。そこで、これらに関する具体的な計画立案と実施に関する調査研究を行う。
	室 員	松原孝俊 (言語文化研究院教授)
	期 間	平成15年4月1日～平成16年3月31日
	担当窓口	栗山 平 (情報管理課課長補佐)
11	事 項	ICタグによる図書館運用に関する調査研究
	概 要	九州大学附属図書館における図書貸出/返却窓口の作業の効率化、図書検索時間の短縮、無人ゲートによる入出者管理など、図書館サービスの拡大を目指したIT化推進のために、ICタグを用いた図書館運用に関して調査研究を行う。
	室 員	藤崎清孝 (システム情報科学研究院助教授)
	期 間	平成15年4月1日～平成16年3月31日
	担当窓口	安永振一郎 (情報サービス課情報サービス第一掛長)
12	事 項	レファレンス事例検索システムに関する調査研究
	概 要	九州大学附属図書館におけるレファレンス業務支援のために、過去の事例を蓄積し、今後のサービス提供に役だてるためのレファレンス事例検索システムの構築に関する情報収集と調査研究を行う。とくに、九州地区大学図書館協議会の各図書館との連携も考慮し、今後の図書館の電子化に対応できるシステムの実現法について調査研究を行う。
	室 員	竹田正幸 (システム情報科学研究院助教授)
	期 間	平成15年4月1日～平成16年3月31日
	担当窓口	堀之口廣教 (情報サービス課参考調査掛長)

VII

関連規則等

九州大学附属図書館研究開発室の設置について

(平成 8年2月20日評議会決定)

(平成11年5月21日評議会改正)

(平成13年3月23日評議会改正)

一 設 置

九州大学附属図書館に、研究開発室を置く。

二 目 的

研究開発室は、大学における学術情報の収集、加工、蓄積、提供及びその他図書館が行う教育研究支援活動の改善に関する事項のうち、附属図書館長が指定する課題について研究開発を行い、もって高度な図書館サービスの実現に寄与することを目的とする。

三 室 長

- 1 研究開発室に室長を置き、附属図書館長をもって充てる。
- 2 室長は、研究開発室の業務を総括する。

四 室 員

- 1 研究開発室に室員を置く。
- 2 室員は、指定された課題について研究開発を行う。
- 3 室員は、本学の教官のうちから、附属図書館長の推薦に基づき、総長が任命する。
- 4 室員の任期は一年とし、再任を妨げない。

五 事 務

研究開発室の事務は、附属図書館情報管理課において処理する。

六 その他

この決定に定めるもののほか、研究開発室の運営に関し必要な事項は、室長が定める。

附 記

- 1 この決定は、平成8年4月1日から実施する。
- 2 研究開発室は、平成8年4月1日から平成13年3月31日までの間存続するものとする。ただし、同室の成果の評価を踏まえて見直しの上、平成13年4月1日以降も存続する必要があるときは、適切な時限を設けて、評議会の了承を得るものとする。
- 3 前項の研究成果の評価の結果、研究開発室は、平成13年4月1日から平成18年3月31日までの間存続するものとする。ただし、同室の成果の評価のを踏まえて見直しの上、平成18年4月1日以降も存続する必要があるときは、適切な時限を設けて、評議会の了承を得るものとする。

九州大学附属図書館研究開発室要項

(平成 8 年 3 月 19 日附属図書館商議委員会承認)

(平成 13 年 7 月 16 日附属図書館長伺定)

(趣 旨)

- 1 この要項は、「九州大学附属図書館研究開発室の設置について」(平成 8 年 2 月 20 日評議会決定)に定めるもののほか、九州大学附属図書館研究開発室(以下「研究開発室」という。)の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(研究開発)

- 2 附属図書館長は、研究開発事項及び期間を定め、研究開発事項に適した者を室員として選抜するものとする。

(総長への室員の推薦)

- 3 附属図書館長は、総長に室員を推薦するにあたり、室員が所属する部局等の長の承諾を得るものとする。

(特別研究員)

- 4 附属図書館長は、室員である者が、定年又は辞職等により九州大学の職を離れた場合、研究の継続若しくは発展のため、特別研究員として委嘱することができるものとする。

(研究開発成果等の報告)

- 5 研究開発室長は、研究開発の成果及び進捗状況を適宜商議委員会等に報告するものとする。

(運営経費)

- 6 研究開発室の運営に関する経費は、附属図書館の予算上可能な範囲で支弁するものとする。

(その他)

- 7 この要項に定めるもののほか、研究開発室の運営については、研究開発室長の定めるところによる。

附 則

この要項は、平成 8 年 4 月 1 日から実施する。

附 則

この要項は、平成 13 年 7 月 16 日から実施、平成 13 年 7 月 1 日から適用する。

- 平成8年2月20日 評議会において「九州大学附属図書館研究開発室の設置について」決定
- 3月19日 附属図書館商議委員会において「九州大学附属図書館研究開発室要項」承認
- 4月1日 研究開発室設置
- 6月1日 研究開発室員総長発令（竹田正幸 大学院システム情報科学研究科助教授、柳原正治 法学部教授、中野三敏 文学部教授）
- 11月19日 九州大学の新しい図書館情報システムの披露式展及びデモンストレーションを開催（研究開発の成果を披露、OPAC 横断検索システム、CD-ROM サーバシステム、画像検索システム、全文検索システムなど）
於：九州大学中央図書館視聴覚ホール
- 11月29日 竹田正幸室員による講演『電子図書館を超えて』（平成8年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会福岡地区第2回研究会）
於：九州大学中央図書館会議室
- 平成9年1月9日 研究開発室懇談会（第1回）開催 於：館長室
- 3月18日 研究開発室員を講師として図書館職員研修会を開催
竹田正幸室員『情報検索と図書館』
柳原正治室員『欧米及び日本の「外交史料館」について』
中野三敏室員『版本書誌学の諸問題』
- 4月1日 平成9年度研究開発事項として前年度研究開発事項及び研究室員を継続
ESAKIA 全文データベースを WWW サーバーにより公開
- 9月4日 研究開発室懇談会（平成9年度第1回）於：館長室
- 11月15日 米国大学図書館視察（柳原研究開発室員、末次情報管理課課長補佐。シカゴ大学図書館、アメリカ図書館協会本部など視察。大規模大学図書館の組織・運営・サービス、電子図書館化、研究開発機能等の実態調査のため。11月22日まで）
- 12月1日 国文学関係貴重資料「大和物語」「伊勢物語」「建礼門院右京大夫集」画像データベースを WWW サーバーにより公開
- 12月22日 研究開発室懇談会（平成9年度第2回）於：館長室
- 平成10年2月1日 「17～18世紀国際法史・国制史コレクション」データベースを WWW サーバーにより公開
- 3月24日 研究開発室懇談会（平成9年度第3回）於：館長室

- 4月1日 研究開発室総長発令（竹田正幸 大学院システム情報科学研究科助教授、柳原正治 法学部教授、中野三敏 文学部教授、今西裕一郎 文学部教授）
- 4月1日 国文学関係貴重資料「扶桑名勝図」画像データベースを WWW サーバーにより公開
- 7月6日 研究開発室懇談会（平成10年度第1回）於：館長室
- 10月28日 研究開発室懇談会（平成10年度第2回）於：館長室
- 11月9日 秦ソウル大学校中央図書館長による講演『情報化時代における韓日文化交流と大学図書館の役割』於：視聴覚ホール
- 11月9日 研究開発室研究会 於：中央図書館会議室
ソウル大学校中央図書館と九州大学附属図書館における電子化の状況についての報告と意見交換
- 平成11年2月22日 研究開発室懇談会（平成10年度第3回）於：館長室
- 3月26日 ソウル大学校図書館との図書館間交流協定締結 於：ソウル大学校
- 4月1日 研究開発室総長発令（竹田正幸 大学院システム情報科学研究科助教授、柳原正治 大学院法学研究科教授、今西裕一郎 文学部教授、松原孝俊 言語文化部教授、吉田昌彦 大学院比較社会文化研究科教授、）
- 4月12日 研究開発室会議（平成11年度第1回）於：館長室
- 5月10日 松原孝俊室員による開学記念貴重文物展観「韓国を知る、日本を知る」－江戸時代から21世紀の国際交流を考える－5月16日まで
有川室長講演（日本医学図書館協会シンポジウムパネル討論「情報の検索から知識の発見へ」於：アクロス福岡）
- 5月11日 松原孝俊室員による公開講演会「命を五年縮候」－雨森芳洲と日韓文化交流－
- 5月17日 研究開発室会議（平成11年度第2回）於：館長室
- 5月27日 有川室長講演（国立大学図書館協議会「図書目録カードのイメージ化とその検索」於：東京大学附属図書館）
- 7月1日 研究開発室南俊朗助教授発令（教官定員運用による、大型計算機センター）
- 7月21日 有川室長講演（名古屋大学図書系職員研修会「情報学研究と大学図書館」於：名古屋大学附属図書館）
- 10月31日 東南アジア大学視察（柳原研究開発室室員、栗山情報管理課課長補佐、益森電子情報掛長。国立シンガポール大学、チュラロンコン大学及びタマサート大学図書館など視察。東南アジアにおける電子図書館化の現状、英語以外言語使用国における電子図書館化及び組織・運営・サービス・予算等の実態調査のため。11月5日まで）
- 平成12年1月26日 有川室長講演（熊本大学学術講演会「九州大学における情報基盤センター

- への期待」於：熊本大学附属図書館)
- 3月1日 有川室長講演(九州大学附属図書館講演会「九州大学附属図書館の中・長期目標について」於：九州大学附属図書館)
- 3月22日 研究開発室会議(平成11年度第3回)於：館長室
- 3月24日 有川室長、今西室員、佐田事務部長ソウル大学校中央図書館訪問
- 3月31日 国文学関係貴重資料「源氏物語」画像データベースを WWW サーバーにより公開
- 4月1日 研究開発室総長発令(竹田正幸 大学院システム情報科学研究科助教授、柳原正治 大学院法学研究科教授、今西裕一郎 文学部教授、松原孝俊 言語文化学部教授、吉田昌彦 大学院比較社会文化研究科教授、Wolfgang Michel 言語文化研究院教授)
- 4月 「電子図書館のための検索サービス技術に関する研究・開発」、九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト(～平成12年度)
- 5月8日 今西室員による開学記念貴重文物展観「平安朝文学入門」－竹取・伊勢・源氏の世界－5月14日まで
- 5月11日 今西室員による公開講演会「平安朝文学の楽しみ方」
- 5月29日 研究開発室会議(平成12年度第1回)於：館長室
- 6月16日 ソウル大学校中央図書館を訪問(今西室員、田中情報サービス課長、山田情報システム課図書館専門員)
- 6月27日 アメリカ合衆国カリフォルニア州立大学バークレー校、スタンフォード大学を訪問(今西室員、中野三敏九大名誉教授、古賀情報サービス課図書館専門員が、和漢書書誌調査、図書館運営の実態等を調査。7月2日まで)
- 7月6日 文学部及び九州文化史研究所の図書目録カード約50万枚を新たに入力し、イメージデータによる図書目録検索システムをさらに充実させ公開
- 8月1日 Yamanoue, T., Minami, T. and Ruxton, I.: Using the WebLEAP(Web Language Evaluation Assistant Program) to Write English Compositions, FLEAT IV(The Fourth Conference on Foreign Language Education and Technology), July 28 - August 1, 2000.
- 8月23日 有川室長講演(東北大学附属図書館講演会「九州大学における電子図書館機能の拡充」於：東北大学附属図書館)
- 9月27日 南俊朗、栗田英和、有川節夫：イメージによる図書目録カード検索システム－遡及入力問題の一解決法－、デジタル図書館、ISSN1340-7287、No.18、Sep. 2000.
- 10月6日 有川節夫、南俊朗「ICタグに関する調査報告」、ICタグに関する懇談会(於：東京大学附属図書館)

- 11月8日 有川室長講演（国立情報学研究所公開講演会特別講演「情報学研究所への期待」於：京都国際会議場）
- 11月10日 台湾大学呉明德図書館長が来館し、「図書館の電子化と電子図書館に関する合同セミナー」を開催（有川室長のオープニングに続き、呉館長「Development of Digital Libraries in Taiwan」、南室員「Putting Old Data into New System : Web-based Catalog Card Image Searching」、竹田室員「AIR and SIGMA: Two Efficient Information Retrieval Systems at Kyushu University」、篠原歩システム情報科学研究所助教授「Efficient String Pattern Matching and Text Compression : The Dawn of a New Era」、有村博紀システム情報科学研究所助教授「Discovery of Important Keywords in the Cyberspace」松原室員により締めくくり。）
- 11月13日 2000年京都電子図書館国際会議におけるチュートリアル他（有川室長「大学図書館と電子図書館の未来」、Toshiro Minami, Hidekazu Kurita, Setsuo Arikawa 「Putting Old Data into New System: Web-based Catalog Card Image Searching」、Hiroki Arimura, Jun-ichiro Abe, Hiroshi Sakamoto, Setsuo Arikawa, Ryoichi Fujino (ENICOM), Shinichi Shimozono (Kyusyu Institute of Technology) 「Text Data Mining: Discovery of Important Keywords in the Cyberspace」11月16日まで）
- 11月14日 Minami, T., Kurita, H. and Arikawa, S.: Putting Old Data into New System: Web-based Catalog Card Image Searching, Proc. 2000 Kyoto International Conference on Digital Libraries (ICDL2000), pp. 296-303, Nov. 2000.
- 11月17日 韓国高麗大学、梨花女子大学等を訪問（今西室員、山口情報サービス課掛員、木村医学分館相互利用掛長、松田六本松分館閲覧掛長、阿部経済学部図書掛長が視察し、韓国における大学図書館の電子図書館状況、利用サービスの現況等を調査する。）
- 11月18日 オーストラリア国立大学、モナッシュ大学を訪問（江藤雑誌情報掛員が九州大学創立八十周年記念事業により、オーストラリアにおける大学図書館のコンソーシアムの実態等について調査。11月25日まで）
- 11月29日 松川伸一、南俊朗：図書目録カードイメージ入力のボトルネックー大量データの正当性を検証するー、デジタル図書館、ISSN1340-7287、No. 19、Nov. 2000.
山之上卓、南俊朗、Ian Ruxton：文書作成支援のためのWWWコンコーダンサー、第7回ソフトウェア工学の基礎ワークショップ (FOSE2000)、Nov. 2000.

- 12月7日 有川室長講演（国立大学図書館協議会シンポジウム基調講演「オンラインジャーナルの導入と外国雑誌の収集体制の在り方」於：名古屋大学附属図書館）
- 12月12日 Oda, M. and Minami, T.: From Information Search towards Knowledge and Skill Acquisition with SASS, Proc. 2000 Pacific Rim Knowledge Acquisition Workshop (PKAW2000), Dec. 2000.
- 平成13年1月10日 勉誠出版より「古活字版 源氏物語」全巻画像データベース－九州大学附属図書館所蔵本－九州大学附属図書館研究開発室編 監修・解説 今西裕一郎（人文科学研究院教授）CD-ROM 発行
- 2月16日 韓国釜山大学、慶山大学、韓国中央図書館等を訪問（松原室員、園田医学分館図書館専門員、田村情報サービス第二掛長、林田データベース掛長が電子図書館化、データベース化の現状、利用サービスの実態等を調査）
- 3月1日 研究開発室業務成果報告会を開催し評議会への報告を行った。この結果、さらに5年間の研究開発活動が承認された。
- 3月7日 有川室長講演（東京大学附属図書館講演会「学習・教育・研究の基盤としての大学図書館をめざして」於：東京大学附属図書館）
- 3月7日 有川節夫、南俊朗「ICタグに関する調査報告（2）」、ICタグに関する懇談会（於：東京大附属図書館）
- 3月20日 韓国ソウル大学校を訪問（有川室長、今西室員、南室員、高塩情報管理課長がソウル大学校中央図書館との交流協定事業のひとつである、刊行物の交換の一環として、ソウル大学校出版会と九州大学出版会の刊行物を相互に寄贈交換することについての協議を行い、合意に達した。）
- 3月20日 有川室長講演（ソウル大学校中央図書館「Discovery of Important Keywords in the Cyberspace」
今西室員講演（ソウル大学校中央図書館「古活字版源氏物語画像データベース」）
南室員講演（ソウル大学校中央図書館「Putting Old Data into New System」）
- 4月1日 研究開発室総長発令（松尾文碩 情報基盤センター長・システム情報科学研究院教授、南 俊朗 研究開発室助教授、今西裕一郎 人文科学研究院教授、吉田昌彦 比較社会文化研究院教授、山野善郎 人間環境学研究院助教授、柳原正治 法学研究院教授、Wolfgang Michel 言語文化研究院教授、藤崎清孝 システム情報科学研究院助教授、有村博紀 システム情報科学研究院助教授）
- 4月 平成14年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）として喜田・南室員の研究開発事項である「九州大学総合目録画像データベース」

が採択された。

- 4月 「図書目録カードイメージを用いた統合的書誌情報検索システムに関する研究」科学研究費基盤研究(C)(2)(～平成14年度)
- 5月11日 研究開発室会議(平成13年度第1回)於:館長室
- 5月31日 有川館長:「ICタグに関する懇談会経過報告」、国立大学図書館協議会理事會
- 6月15日 ICタグの図書館運用視察のため宮崎県北方町立図書館を訪問(有川室長、南室員、藤崎室員、佐田事務部長、田中情報サービス課長、栗山情報管理課補佐、昌子情報サービス第二掛長、井上医学分館専門員、緒方医学分館相互利用掛長)
- 6月22日 山野室員(新図書館検討ワーキンググループに対する講演)
- 6月28日 山野室員(新図書館検討ワーキンググループから施設部に提出する「新図書館(理系図書館)における建築性能等への要望(案)」1次案策定)
- 9月8日 Minami, T. and Arikawa, S.: Amalgamation of Classification and Keyword Searches of Library Catalogs with Web Technology, KES2001
- 10月1日 喜田拓也研究開発室講師発令
- 10月 全学教育科目「ネット時代の情報センス」講義開始(南室員)
- 10月15日 研究開発室会議(平成13年度第2回)於:館長室
- 10月25日 南 俊朗「ネットワーク時代の電子図書館像を考える—九州大学附属図書館における試行—」、全国図書館大会大学図書館分科会招待講演
- 11月7日 南 俊朗「図書目録カード検索システムの開発と図書館電子化」、大分県大学図書館協議会研修會
- 12月18日 南 俊朗、喜田拓也「電子図書館構築のための画像認識技術への期待」、数式認識研究会(於:福岡教育大学)
- 平成14年1月7日 附属図書館講演會(研究開発室研究開発業務成果報告會)

I プレゼンテーション

- 1) 図書館と情報スキルアップ教育:情報検索講習會報告と今後の展望
喜田拓也(研究開発室講師)
- 2) 図書館自動化&デジタル化=電子図書館:附属図書館における現状と展望、南 俊朗(研究開発室特別研究員・九州情報大学教授)
- 3) RFIDを用いた図書館運用について
藤崎清孝(研究開発室員・システム情報科学研究院助教授)
- 4) 古書・文書データベース構築に関する調査研究
吉田昌彦(研究開発室員・比較社会文化研究院教授)
- 5) 統合移転後の新図書館建築に関する調査研究

山野善郎（研究開発室員・人間環境学研究院助教授）

Ⅱ 講演

これからの大学図書館 有川節夫（研究開発室長、附属図書館長）

- 2月6日 喜田拓也、南俊朗「電子図書館：図書館自動化&デジタル化」、産学官技術シーズ展
- 2月22日 韓国慶北大学校を訪問（有川室長、今西室員、松原言語文化研究院教授、栗山情報管理課課長補佐が慶北大学校中央図書館との図書館間交流協定締結のための協議を行い、締結に向けて相互に手続を推進することを確認した。）
また、慶北大学校からの要請により、有川館長が特講として「これからの大学図書館」の講演を行い、この韓国語版もテキストとして後日配布された。
- 4月1日 研究開発室総長発令（藤田昌也 副館長・経済学研究院教授、松尾文碩 情報基盤センター長・システム情報科学研究院教授、喜田拓也 研究開発室講師、南 俊朗 研究開発室特別研究員・九州情報大学教授、今西裕一郎 人文科学研究院教授、吉田昌彦 比較社会文化研究院教授、宮崎克則 総合研究博物館助教授、山野善郎 人間環境学研究院助教授、松原孝俊 言語文化研究院教授、Wolfgang Michel 言語文化研究院教授、藤崎清孝 システム情報科学研究院助教授、竹田正幸 システム情報科学研究院助教授、Cobbing Andrew 留学生センター教授）
- 4月 平成14年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（データベース）として Wolfgang Michel 室員の研究開発事項である「九州大学医学分館所蔵貴重古医書・画像データベース」が採択された。
- 4月 筑紫分館において IC タグの共同実験をチェックポイントシステムジャパン及び三菱マテリアル社と開始した。
- 4月 「RFID タグによる図書館業務の自動化・省力化に関する実証的研究」科学研究費補助金（B）(2)（～平成15年度）
- 4月 「eラーニングシステムを利用した学内教育基盤整備のためのモデル講義の構築」、九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト（情報基盤センター等との共同研究）
- 4月19日 大分市において開催された第53回九州地区大学図書館協議会において南俊朗特別研究員（九州情報大学教授）による講演「IC タグの利用と目録カードのイメージ検索による図書館電子化への試み」が行われた。
- 5月9日 研究開発室会議（平成14年度第1回）於：中央図書館1階会議室
- 7月10日 大韓民国慶北大学校中央図書館において、当館との図書館間交流協定を締

結した。

- 11月21日 南 俊朗「新世代図書館像を探る：電子図書館への実証的アプローチ」、OR学会九州支部講演会（於：福岡大学）
- 11月25日 平成15年度から職員の漢籍についての研修を計画し、入門編として、人文科学研究院教官4人のご協力を受け、週1回計4回の漢籍目録講習会を開催し、毎回、図書系職員約40人が参加した。
- 11月28日 Yamanoue, T., Minami, T. and Ruxton, I: 「Web-Based Concordancer to Learn Usage of English Expressions」, First International Conference on Information Technology & Applications (ICITA 2002)
- 平成15年1月8日 海外研修報告会を開催した。（藤田室員・昌子情報サービス第二掛長（フィンランド、スウェーデン）大村データベース掛員（イギリス、ドイツ）
- 1月 南 俊朗、喜田拓也「RFIDタグを利用した自動化図書館への課題と夢」、季刊文教施設09
- 1月14日 南 俊朗「自動認識技術による図書館電子化の試み」、鹿児島県大学図書館協議会研修会（於：鹿児島国際大学）
- 1月25日 有川室長により、筑波大学・図書館情報大学統合記念シンポジウム招待講演「これからの大学図書館と電子図書館機能」が行われた。
- 1月28日 次のように附属図書館講演会を開催した。
慶応義塾大学三田メディアセンター事務長加藤好郎「私立大学図書館の経営戦略：図書館職員の育成計画」
喜田拓也（研究開発室講師）、藤崎清孝（研究開発室員・システム情報科学研究院助教授）及び南俊朗（研究開発室特別研究員・九州情報大学教授）
「RF-IDによる図書館運用について－図書館の電子化・自動化に向けて－」
- 2月4日 筑紫分館においてICタグ披露式を行った。
- 2月10日 中華民国台湾大学を訪問（有川室長、松原室員、岩佐言語文化研究院教授、園田情報サービス課専門員が台湾大学図書館との図書館間交流協定締結のため項潔図書館長との協議を行い、締結に向けて相互に手続を推進することを確認した。）
- 2月20日 ラテン語古刊本書誌作成研修会の第5期目を終了
- 2月27日 沖縄県図書館協議会講演会（於：琉球大学） 招待講演「九大附属図書館における情報リテラシー教育活動とe-Learningへの取り組み」喜田拓也

附属図書館研究開発室の概要 2002-2003 (第7年次)

2003年4月1日発行

九州大学附属図書館

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

電話 092(642)2324